

## 定年待たずワイン留学

先週紹介した銀座8丁目の「シャンソニエ マダムREI窓」で、魅力的な紳士に会った。

金子三郎さん、64歳。大学卒業後、三菱電機でサラリーマン人生を送ってきたが、「気力あるうちに夢を実現しよう」と、定年を待たず57歳で退職、渡仏した。難関のボルドー第2大学醸造学部でワインを学び、今はシャンソニエなどでワイン会を主宰。経営者から外交官まで長年培った人脈の広さを生かし、楽しい語らいの場をつくっている。友人の国会議員のホームページでは、ブログ「ボルドー便り」を好評連載中だ。

夢の始まりは40年ほど前に飲んだ一本のボルドーから。「香りや味以上にフランスという異国の文化の象徴であるワインにひかれたのでしょう。以来、書物で空想の小旅行をしつつ、ワイン留学の夢を温めてきた」という。敬愛する父親が62歳の若さで亡くなったことも少なからず影響している。「一度きりの人生、残された時間を会社からも家族からも離れて、しばらく自分のためだけに生きてみたい」。幸いにもその思いに、妻も息子も賛成してくれた。

「夢とは抱き続けていれば必ず実現すること、この年にして知りました」。勧めてくれた「シャトー・マレスコ・サンテグジュペリ」は、「星の王子さま」の作家の曾祖父が所有したシャトーで作られたワイン。金子さんのさらなる夢とロマンが詰まっている気がした。

(プランタン銀座取締役)

\* 永峰好美の



信